

ふるさと 訪ねある記

47



サトル・サトウ・アート・ミュージアム (中田)

中田町上沼にある中田生涯学習センターの3階に、同町石森出身で現在は芸術の都パリに在住し、世界を舞台に活躍している造形作家佐藤達さんの作品展展示室「サトル・サトウ・アート・ミュージアム」があります。

展示室は、40年間にわたってパリで絵画やレリーフ、版画、彫刻などの芸術作品を制作している佐藤さんの作品と、各国の友人作家の作品など合計600点を超える貴重な作品の数々を平成18年に佐藤さんから寄贈を受け、それらの作品を展示するため平成19年7月にオープンしました。

【所在地】 登米市中田町上沼字館43
【問い合わせ】 教育委員会中田事務所 ☎ 0220 (34) 8081

作品は幾何学構成的絵画といわれる分野のものも多く、全国的にもこれだけの作品が一カ所に収蔵にされているのは非常に貴重です。昨年、全作品を掲載した作品図録が完成し、グランドオープニング式典が開催され、県内外から多くの人が訪れました。

現在、企画展「直線による絵画と視覚芸術展」を開催中で、常設展を含め89点の作品が展示されています。入場無料ですので、ぜひ一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

歴史博物館

広報ミニ展示室 34

= 古鹿山房扁額 (中林梧竹書) =



六朝書で書かれた中林梧竹による扁額

最後の佐沼城主巨理隆胤は明治維新後の明治25年、かつての城の近くに居を構え「古鹿山房」と名付けて文筆活動をおこなっていました。隆胤の交友を物語る資料の一つに、古鹿山房の扁額があります。この額は、幼くして書に親しみ「書聖」と称された中林梧竹の書によるものです。梧竹は藩校の指南役を務め、廃藩置県の後には全国を巡り歩き、明治25年から28年には東北を訪れて、仙台や岩沼などに滞在しています。中国に2度渡って書の勉強をし、ついには六朝書(北朝で発達した独自の楷書体の総称)を踏まえた書風で明治三大書家の一人とたたえられました。県内にも作品が残されており、この資料もその一つと考えられます。

第11回

登米市民劇場「夢フェスタ水の里」

アメリカ及甚物語

カナダ 読る び 加奈陀に渡った螢火の夢



【あらすじ】

明治39年8月、「おいじん」こと及川甚三郎は故郷の82人とともに、帆船水安丸で石巻の萩浜港を出港した。貧しさからの脱却だった。

おいじんはゲンジボタルの里、東和町鱒淵に生まれた。鱒淵川で遊ぶ彼の心には、いつも「螢」がすんでいた。螢火に導かれ、故郷を富ませる事業を次々に興した。

明治29年、42歳の彼はカナダ・フレイザー河での鮭漁に目を付け「紅鮭以外は捨てている。筋子も食べない」ことを知った。早速、日本に向けた塩鮭と筋子の輸出業に着手した。

その事業を拡大するため、故郷から大勢の人を密航させる計画を企てたのだった。それに命運を賭けた人々たち。さまざまな思いを乗せた密航船が今、大海原に出航した…。

◎日時 平成21年 3月 7日(土)午後6時30分～

8日(日)午後2時～ (両日とも開場は1時間前)

◎場所 登米祝祭劇場(大ホール)

◎入場料 前売り【大人】1,000円(当日1,200円)【小中高生】500円(当日600円)

◎販売先 登米祝祭劇場

◎問い合わせ

登米祝祭劇場 ☎ 0220 (22) 0111 FAX 0220 (22) 0115



モバイルとめ
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス登録
tome@entry.mail-dpt.jp (携帯用)